様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １３ 日現在

機関番号：１３１０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ０２５１６

研究課題名（和文）歴史教育実践史における日本史と世界史を融合した授業が有する特質の解明

研究課題名（英文）Characteristics of history classes in postwar Japan that combine national history and world history

研究代表者
茨木　智志（IBARAKI, Satoshi）

上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：３０３２４０２３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、日本史と世界史を融合した歴史教育を実現するために、それに関わる歴史授業の実践がいかなる特質を持つものであったのかを歴史教育学の観点から解明することにある。そのため戦後における関連する歴史教育実践を収集・分析し、授業実践に取り組んだ歴史教師へのインタビューを進めた。その結果、日本史と世界史の完全な融合は実現していないながらも、それを目指した、あるいは意識した歴史授業は戦後の早い時期から存在していたこと、さらに、そのような授業や研究の前提として、日本史や世界史がそれぞれ多様な存在であることが特質として見出せた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　世界史と日本史（自国史）、さらに身近な地域の歴史を含めて、一貫したものとして歴史を捉えることは小中高の社会科教育の中の歴史教育として不可欠なものである。そのための学校教育としての取り組みは、少なくとも戦後の社会科教育の始まりの時点から、その時々の課題に応じて継続して模索されてきたものであった。本研究において示した事例はその一端であるが、今後の教育を考えていく際に、これまでの授業実践での取り組みを活用していくための基礎を固めたところに学術的そして社会的意義を有する。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study was to investigate, from the perspective of history pedagogy, the characteristics of the history teaching practices involved in achieving history education that integrates Japanese and world history. To this end, relevant history teaching practices in the postwar period were collected and analysed, and interviews were conducted with history teachers who were involved in the teaching practices. As a result, it was found that although a complete fusion of Japanese and world history had not been achieved, there had been history classes aimed at or with this in mind since the early postwar period, and that the diversity of Japanese and world history was a premise for such classes and research.

研究分野：歴史教育

キーワード：歴史教育実践史　歴史教育史　日本史と世界史の融合　自国史と世界史　社会科歴史授業

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

高校地理歴史科の「歴史総合」の設置と実施開始に関わって、歴史教育における日本史と世界史をいかに融合した形で歴史教育を進めていくのかが議論されている。

高校における歴史教育は「日本史」と「世界史」として実施され、中学校における歴史教育は社会科「歴史的分野」として実施されてきた。その中で、高校では世界史を盛り込んだ「日本史」や日本史を含めた「世界史」の授業実践がなされ、中学校では日本史と世界史の組み合わせ方や融合の仕方、地域からの日本史・世界史の捉え方などの多くの授業実践が取り組まれてきた。しかし、これらを、日本史と世界史の融合を目指した授業実践として学術的に整理して、その特質を提示した研究はなされていない。そのため、特に過去の授業実践は今日において活用されていないのが現状である。

歴史研究では、日本史や中国史といった“国家”の枠組みを脱却した研究の重要性が認識されて検討が進んでおり、歴史研究の側からの「歴史総合」への言及が多くなされている一方で、歴史教育でのこれまでの授業実践の蓄積はほとんど活用されていない。本研究は、日本史と世界史の融合が授業実践を通じてどのように取り組まれてきたのかを、歴史教育の側から再評価し、学術的に提示する研究である。

現在進行している新科目「歴史総合」をめぐる議論には問題があると考えている。歴史研究者による議論は「内容」に偏っていて、学習者である生徒が考慮されておらず、歴史教師による議論は生徒に合わせながらも「方法」に偏りがちである。問題意識は時代によって異なるも、〈日本史と世界史を融合した歴史授業実践〉と評価できる過去の実践が存在する。もちろん、現在においてそのまま実践できるとは限らないが、その特質を抽出することで、これまでの実践での成果や試行錯誤を今後の歴史授業に活用することができると考える。一方で、歴史教育史の研究を通じて、戦前の小学校日本史（国史）への外国史教材の組み入れ方は、戦争時には自国の立場で独善的に世界史を説明する方向に帰結してしまったことも確認した。つまり、日本史に単純に世界史を盛り込んでも教育的には失敗する恐れがある。このような危惧も本研究の契機となっている。

２．研究の目的

本研究の目的は、〈日本史と世界史を融合した歴史授業実践〉の特質を解明することにある。具体的には、これまでの中学・高校での様々な歴史授業実践の中から〈日本史と世界史を融合した歴史授業実践〉を見出し、その社会的な背景の認識、教育学および歴史学に関わる理論的根拠の活用、学習する生徒の実態の捉え方、授業方法の工夫、当該授業の成果と課題などを分析することで、〈日本史と世界史を融合した歴史授業実践〉が持つ特質を明らかにすることを目指す。

３．研究の方法

本研究は、戦後の中学・高校において実施された〈日本史と世界史を融合した歴史授業実践〉を対象とする。ただし、日本史と世界史の「融合」という言葉を冠した歴史授業実践は、近年のものを除いて、ほとんど報告されていない。そのため第一に、日本史と世界史の「融合」を観点として、過去の授業実践を改めて整理・分析して、その中から〈日本史と世界史を融合した歴史授業実践〉を見出すことから始める。過去の実践として調査する対象としては、書籍として発行

されたもの以外に、日本史と世界史の「融合」に関わる授業に取り組んできた著名な中学・高校の教師による授業実践、歴史教育の専門誌に掲載された授業実践、社会科教育の専門誌に掲載された授業実践、地域における社会科・歴史教育の専門誌に掲載された授業実践、などを考えている。第二に、見出した〈日本史と世界史を融合した歴史授業実践〉をそれぞれの実践された時期や地域に位置づけ、その社会的な背景、授業理論および歴史研究に関わる動向、当時の学校や生徒の状況などを照らし合わせた上で、各実践の性格を分析する。その際、授業の実際に迫るために聞き取り調査も活用する。そして、第三に、これらを総合して〈日本史と世界史を融合した歴史授業実践〉の総体としての特質を明らかにする。

４．研究成果

過去の授業実践を〈日本史と世界史を融合した歴史授業実践〉という観点から整理を進めた。社会科の出発点において中学校社会科の「日本史」、高校社会科の「日本史」「世界史」のそれぞれの内容の充実・完成を目指した授業実践への取り組みから始められている中で、地域・日本・世界を含んだ「日本史」「世界史」の主張や授業実践、さらには副教材や準教科書を含む教科書等の作成が模索されている状況も確認できた。

その中で、特に地域の中学校で取り組まれていた社会科日本史の例に注目し、その授業プランと作成された教科書（準教科書）について紹介と分析を示すことができた。この教科書を戦後の国定日本史教科書と比較すると、地域史（郷土史）の組み込みを主題としながら世界史の中の日本、そして生徒の生活する地域（郷土）を結び付ける意図を見出すことができた。他の事例の分析を進めつつ、中学校社会科での歴史教育が、日本史と世界史をあえて分離しない形での「歴史的分野」への展開に対して、その連続性・非連続性を考察していくという新たな課題を提示する結果となった。また関連して、中高を中心に国際理解教育を推進していた団体の機関誌を取り上げて、1970 年代の教育における日本と世界を再検討する素材を提供することができた。

高校での「日本史」「世界史」での〈日本史と世界史を融合した歴史授業実践〉については、過去の授業実践の収集・分析に加えて、特に実践者に注目して検討を進めた。具体的には、「日本史」または「世界史」の授業に取り組んできた、公立・私立の高校で歴史授業を担当し、民間教育団体で活動を進めてきた 3 名の人物である。それぞれの生い立ちから教職に就いて以後の教育や学習・研究・実践そして内外での研究会活動を、聞き取りを通して整理し、収集した授業実践や主張の著作物の背景や趣旨を確認しながら、その取り組みがいかなるものであったのか、また、自己の実践を踏まえての歴史教育の現状をいかに捉えているのかなどをまとめることができた。聞き取り調査の結果はインタビュー記録として公刊した。

収集した資料や情報に対する考察はいまだ継続の途上にあるが、次のことは指摘できる。〈日本史と世界史を融合した歴史授業実践〉は今日においても厳密な意味での実現には至っていないが、それを目指した、あるいは意識した歴史授業実践は、戦後の社会科の早い時期から模索が存在していたものであった。さらに、〈日本史と世界史を融合した歴史授業実践〉や研究においては、日本史や世界史が地域史を含めてそれぞれが多様な存在であることが前提となっているものであった。これらの点を〈日本史と世界史を融合した歴史授業実践〉の持つ特質として見出すことができた。歴史教育の現状を踏まえて、これからも考察を進めていきたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 松本通孝・茨木智志・大木匡尚	４．巻 20
２．論文標題 インタビュー記録　歴史教育体験を聞く　松本通孝先生	５．発行年 2022年
３．雑誌名 歴史教育史研究	６．最初と最後の頁 53-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 茨木智志	４．巻 37
２．論文標題 国際理解教育協議会『国際理解教育』（1971～1976年）について	５．発行年 2022年
３．雑誌名 上越社会研究	６．最初と最後の頁 55－63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鳥山孟郎・茨木智志・大木匡尚	４．巻 19
２．論文標題 インタビュー記録　歴史教育体験を聞く　鳥山孟郎先生	５．発行年 2021年
３．雑誌名 歴史教育史研究	６．最初と最後の頁 77-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 茨木智志	４．巻 21
２．論文標題 新潟県高田市立大町中学校社会科研究部編『郷土史を加味せる新しい中学の日本歴史』（1950・1951年）について	５．発行年 2023年
３．雑誌名 歴史教育史研究	６．最初と最後の頁 32-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 鬼頭明成・茨木智志・大木匡尚	4．巻 21
2．論文標題 インタビュー記録　歴史教育体験を聞く　鬼頭明成先生	5．発行年 2023年
3．雑誌名 歴史教育史研究	6．最初と最後の頁 76-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 茨木智志・大木匡尚	4．巻 58
2．論文標題 新潟県高田市立大町中学校の大町プラン（1949年）における社会科日本史構想の特質	5．発行年 2024年
3．雑誌名 総合歴史教育	6．最初と最後の頁 ー
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 茨木智志
2．発表標題 新潟県高田市立大町中学校社会科研究部編『郷土史を加味せる新しい中学の日本歴史』（1950・1951年）について
3．学会等名 歴史教育史研究会第18回例会
4．発表年 2022年

1．発表者名 茨木智志
2．発表標題 「歴史総合」の入試科目化を考える―大学入試共通テスト「歴史総合」サンプル問題の検討を通して―　社会科教育史の観点から
3．学会等名 高大連携歴史教育研究会第7回大会
4．発表年 2021年

１．発表者名 茨木智志
２．発表標題 鳥山孟郎世界史教育実践の考察
３．学会等名 総合歴史教育研究会第56回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 茨木智志・大木匡尚
２．発表標題 新潟県高田市立大町中学校の大町プラン（1949年）における社会科日本史構想の特質
３．学会等名 総合歴史教育研究会第58回大会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関